

女性医師・研究者支援部門

Division of Women Health Care Professionals and Researchers Support

2018 Spring

Annual Report

アニュアルレポート



東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター
TWMU Career Development Center for Medical Professionals

女性医師・研究者支援部門

Division of Women Health Care Professionals and Researchers Support

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
TEL:03-3353-8112(内線:41382) FAX:03-3353-6793
E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp <http://www.twmu.ac.jp/w-support/>



女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備します。

東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター長

女性医師は近年増加し、2000年以降の医師国家試験合格者では女性の割合が常に3割を超え、2018年の合格者も34%でありました。医師全体での女性医師の割合は2割に達しておりますが、指導的地位に立つ女性医師(研究者・教員・管理職・医師会役員、学会役員、国・自治体委員等)は極めて少なく、女性医師、研究者のキャリアパスはいまだに未熟な状態です。そのような現状を受けて、女性医師の特性にふさわしい医学教育—初期・後期臨床研修—生涯教育にわたる包括的かつ体系的な教育プログラムを構築し、指導的地位に立つ女性医師を育成することは極めて重要であります。

東京女子医科大学では2006年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」を経て、2009年に法人直轄の部門として、『男女共同参画推進局』を設立し、多くの事業を進めてまいりました。今般、女性医師・看護師の勤務継続に対する支援、セーフティネットを提供するだけでなく、医療人としてのキャリア形成とその促進、リーダーシップの育成を通じて、リーダーとしてよりよい社会をつくるために活動する女性医療人を育成することを目的として、これまでのステージからさらに一段上のステージを目指していくことを明確にするために、2017年1月より『女性医療人キャリア形成センター』に名称変更いたしました。

センターには「女性医師・研究者支援部門」、「女性医師再研修部門」、「看護職キャリア開発支援部門」、「彌生塾」の従来のプロジェクト部門に加え、「ダイバーシティ環境整備事業推進室」を設置しました。本学は文部科学省2016年度科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)に採択されました。「ダイバーシティ環境整備事業推進室」は本事業を円滑に実現していくために、女性医療人キャリア形成センター傘下のプロジェクト部門と有機的に連携して多面的に活動していく組織です。

女性医師・研究者支援部門は、女性医師の診療継続および女性医学研究者の研究活動を支援するため、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続出来る環境を整備してまいりました。本年度より新規に研究支援員制度を創設しました。また、女子医大ファミリーサポート事業も順調に定着し、現在は東京医科大学と共同して運営するなど、活動の輪を広げております。

東京女子医科大学は、自立した女性医療専門職の育成という建学の精神のもと、最良の医療を実践する知識・技能を修め、高い人格を陶冶した医療者および研究者を育成し、将来の医療に貢献することを目指しております。本センターの今までの取り組みが評価され、本学は2017年度東京都女性活躍推進大賞(教育部門)を受賞しました。今後もより一層、活動を推進してまいります。

皆様のご理解、ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

東京女子医科大学 女性医師・研究者支援部門長

東京女子医科大学では、「高い知識・技能と患者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出すること」を建学の精神としています。女性医師・研究者は、出産や育児などのライフイベントとキャリア形成に必要な時期が重なるため、その期間を通じ、適切な支援が必要です。女性医師・研究者支援部門では、子育て支援、勤務環境の改善、生涯教育・研究への支援を行い、様々な状況において困難に直面する女性医師への診療の継続や研究の遂行を可能とするシステムを構築しています。

院内保育、病児保育、ファミリーサポート事業による子育て支援、診療現場への短時間勤務制導入による勤務環境の改善を通じ、女性臨床系教員の勤務継続とキャリア形成支援を行っております。

今年度より、新たに研究支援員制度を導入し、ライフイベントにより研究継続・研究時間確保が難しくなった女性研究者だけでなく、十分な実績がある将来有望な女性研究者に対しても研究支援員を配置し、女性研究者のさらなる研究力向上を目指します。さらに、女子中高生向けの理系進路選択支援プログラムも本部門で行い、次世代の育成にも努めてまいります。

これらの事業は、たくさんの皆様のご支援のもとに成り立っております。本学生父母会、至誠会会員、教職員、また、女性医療人キャリア形成センター、人事課、学務部、院内保育所、ファミリーサポートの皆様にも厚く感謝申し上げます。今後も、皆様からのなご一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



理事 肥塚 直美



臨床検査科
教授 佐藤 麻子

ごあいさつ Annual Report 2018 Spring

女性医師・研究者支援部門 副部門長

本学は国内に先駆けて、女性医師・研究者への支援体制を構築してまいりました。今般では、女性の働き方の多様性が認められライフワークバランスという言葉も浸透し、女性医師においても生涯にわたり勤務を継続しやすい環境が整いつつあります。一方で、指導的地位につくために必要な「医学の専門性を究める」支援は未だ整っておらず、キャリア形成をする上での壁があるのも事実です。

女性医師・研究者支援部門では院内保育・学内ファミリーサポート事業などの保育支援のみならず、女性医師・研究者がライフイベントとバランスをとりながらも「専門性」の研鑽が積める支援を行っています。例えば、宮原基金「女性臨床医師支援」は、女性臨床系教員が診療上の特殊技能の取得などを図るために設けられた支援制度です。また、女性医学研究者には、「研究支援員制度」を設け研究の促進を図る支援を行います。この制度は、育児、介護を抱える女性研究者に限定した支援ではなく、その研究領域において優れた業績を有する有能な若手女性研究者に対しても研究支援員をつける制度です。これらの支援制度によって、より多くの女性医師・研究者の方々が自己の学術の研鑽を積み、将来、リーダーとして活躍してくれることを願っています。

これらの事業は支援者の皆様方を始め、事務や院内保育所・ファミリーサポートなどの多くの方々のご支援・ご協力がなければ成り立ちません。ここに厚く御礼を申し上げるとともに、今後とも皆様の温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



生理学(第一)講座
教授・講座主任
宮田 麻理子

女性医師・研究者支援部門 副部門長

本部門では、女性医師、研究者の支援を行っております。女性医師は、学び、技能の研鑽活性が最も高いと思われる年代に、結婚や出産、育児、介護などのイベントがあり、キャリアの中断を余儀なくされる局面にしばしば遭遇いたします。医師国家試験の合格者の3分の1以上を占めるような昨今、「結婚後の出産・育児、介護という仕事と、医師としてのキャリアをどのように両立させるか」という課題はまだ解決されていません。いったん離職してしまうと復帰には非常な労力を要します。そこで、本学は100有余年の歴史を持つ女子の高等専門教育実践施設である特性を生かし、個々の事情にあった多面的な支援を一人一人に行い、キャリアの形成、継続を支えて参りました。それも皆様のご支援あってのことでございます。今後も社会に貢献する女性医師の育成に全力で邁進いたします。引き続きのご支援賜りたくお願い申し上げます。

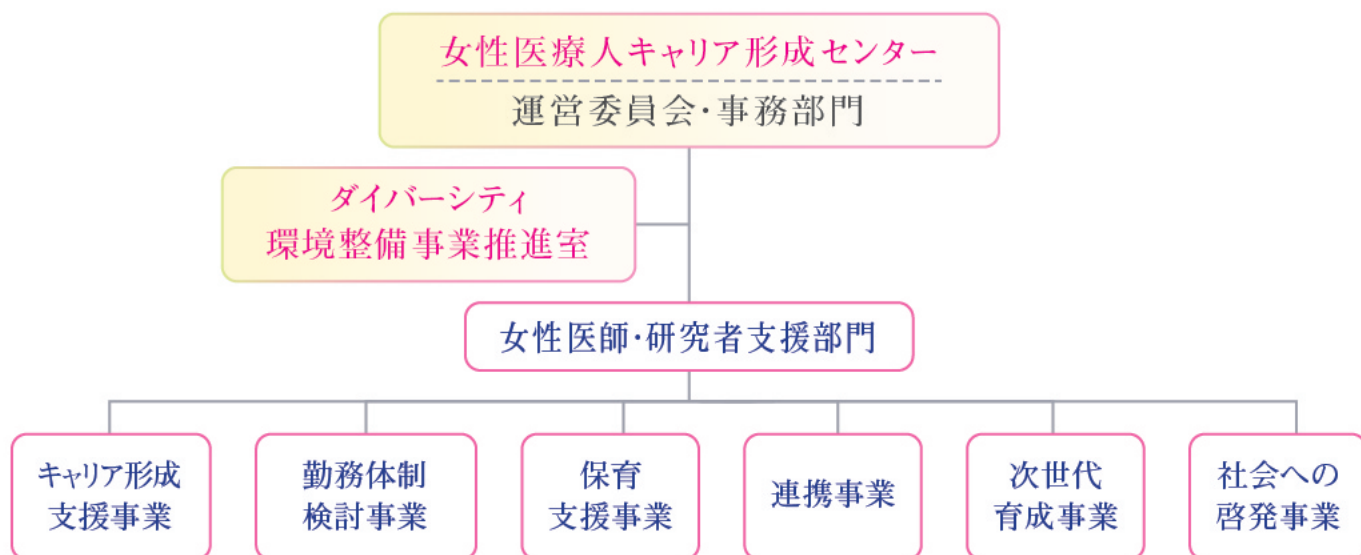


総合診療科・予防医学科
准教授 村崎 かがり

部門概要

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献することを目指して、「女性医師・研究者支援部門」を設立いたしました。

子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備します。



女性医療人キャリア形成センター

センター長	肥塚 直美	理事会	理事
副センター長	齋藤 加代子	遺伝子医療センター	特任教授

女性医師・研究者支援部門

部門長	佐藤 麻子	臨床検査科	教授
副部門長	宮田 麻理子	生理学(第一)講座	教授・講座主任
副部門長	村崎 かがり	総合診療科・予防医学科	准教授

2018年度体制

キャリア形成支援事業、女性医師・研究者の育成支援

選考委員 支援対象者の審査委員	佐藤 麻子	臨床検査科	教授
	宮田 麻理子	生理学(第一)講座	教授・講座主任
	村崎 かがり	総合診療科・予防医学科	准教授
	三谷 昌平	生理学(第二)講座	教授・講座主任
	永田 智	小児科	教授・講座主任
	新井田 達雄	八千代医療センター 消化器外科	教授
	岡田 みどり	化学教室	教授
	内田 啓子	学生健康管理室	教授
	小川 哲也	東医療センター 内科	准教授
	竹宮 孝子	総合研究所	准教授
	片井 みゆき	総合診療科	准教授
	本多 祥子	解剖学講座	准教授

勤務体制検討事業

保育支援事業

院内保育の充実	本院	永田 智	教授・講座主任
		堀内 喜代美	講師
		辻村 貴子	講師
	東医療センター	小川 哲也	准教授
	八千代医療センター	新井田 達雄	教授
経営統括部人事課	小谷 浩平	課長補佐	

ファミリーサポートの 運営支援

堀内 喜代美	乳腺・内分泌外科	講師
辻村 貴子	日本語学	講師
本多 祥子	解剖学講座	准教授

連携事業

学内および学外の 女性医師および研究者の 情報交換：シンポジウム、FDなど	岡田 みどり	化学教室	教授
	宮田 麻理子	生理学(第一)講座	教授・講座主任
	竹宮 孝子	総合研究所	准教授
	村崎 かがり	総合診療科・予防医学科	准教授
	本多 祥子	解剖学講座	准教授

次世代育成事業

女子中高生向けの 理系選択支援プログラム	岡田 みどり	化学教室	教授
	内田 啓子	学生健康管理室	教授

社会への啓発事業

部門の広報	村崎 かがり	総合診療科・予防医学科	准教授
-------	--------	-------------	-----

部門の事業

女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援する事業を行います。

- **キャリア形成支援事業** …… 女性医師・研究者の育成支援
- **勤務体制検討事業** …… 勤務体制、勤務環境の検討と整備
- **保育支援事業** …… 院内保育所の充実、ファミリーサポートの運営支援
- **連携事業** …… 学内外の女性医師・研究者同士の情報交換の場の構成
- **次世代育成事業** …… 女子中高生向けの理系選択支援プログラム
- **社会への啓発事業** …… 部門の広報

研究支援員制度

本学は文部科学省が実施する2016年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に採択されました。ダイバーシティ研究環境整備強化の取り組みとして、研究支援員配置による女性研究者の研究活動支援と研究力の強化を目的とした新しい制度を2018年度より実施します。

本制度は妊娠・出産・育児・介護等のライフ・イベントにより研究活動の継続や研究時間の確保が困難となった研究者や高い学術レベルの研究を行っている将来有望な女性研究者を支援するもので、「研究支援員」の配置により、研究の継続と躍進を支援し、本学に於ける研究活動の活性化を図ることを目的としています。

支援期間は1年間ですが、業績が良好と評価された申請者に対しては最大3年間の継続支援を受けることができます。

【応募条件】・下記A～Dのいずれかに当てはまる、学位取得済みかつ准教授以下の本学の女性研究者

A	妊娠中の研究者
B	子育て(小学6年生以下)期間中の研究者
C	家族の介護を行っている研究者
D	十分な研究実績を有する将来有望な研究者、高い学術レベルの研究を行っている独立した研究者(ただし申請年時の取得研究費が500万円以下の者)

・A～Dに準ずる理由により、支援員の配置が妥当と女性医療人キャリア形成センター長が認めた本学女性研究者(准教授以下の者に限る)
 ※いずれの場合も、産前産後の特別休暇中、育児休業中などにより、研究活動を中断している研究者は支援対象外とします。
 また、短時間勤務制度と研究支援員制度の併用はできません。

短時間勤務制度

女性臨床系教員のためのテニユアトラック

宮原敏基金による「女性臨床医師支援」

女性医療人キャリア形成センター管轄

故・宮原敏氏(本学1932年卒業)の遺贈により設立された基金をもとに女性臨床系教員が診療上の特殊技能取得などキャリア形成を図るために設けられた短時間勤務制度です。准講師以上あるいは卒後10年以上の東京女子医科大学の将来を担う優れた臨床実績を有するか、あるいは臨床能力・技能の優れた女性臨床系教員を対象に1年間の支援を行います。短時間での勤務を継続しながら、自身が定めた目標のための時間が確保できるため、充実した環境の中でさらなるキャリアと向き合い取り組んでいける支援となっています。

臨床系教員の短時間勤務制度

臨床系教員の短時間勤務制度

経営統括部人事課管轄

育児や介護等で通常の勤務が困難となった臨床系教員のための支援です。助教以上の臨床系教員で継続的な勤務が困難となった方や、小学6年生までの子の育児を必要とする方を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

医療練士研修生及び後期臨床研修医の短時間勤務制度

医療練士研修生及び後期臨床研修医(大学院生を除く)の子育て支援です。小学6年生までの子の育児を必要とする方を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

活動報告

2017

- 4月1日 (土) 女性医学研究者支援開始 国際環境・熱帯医学講座 吉井亜希子先生
生理学(第一)講座 木内有希先生
- 4月25日 (火) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 5月22日 (月) 「国民の安心の医療をめざす民進党看護議員連盟」院内保育所視察
- 5月27日 (土) 女性医師支援シンポジウム開催
- 5月29日 (月) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 6月5日 (月) 第14期保育サービス講習会(全9日)
- 6月19日 (月) トヨタ自動車株式会社ファミリーサポート室視察来校
- 6月27日 (火) 女性医学研究者支援 2017年度支援者辞令交付
- 7月3日 (月) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 7月4日 (火) 聖マリアンナ医科大学病院 ファミリーサポート室視察来校
- 8月22日 (火) ファミリーサポート前期スキルアップ研修会
- 9月19日 (火) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 9月25日 (月) 第22回女性医師・研究者支援部門運営委員会開催
- 9月27日 (水) 吉井亜希子先生 支援終了(産休、育休のため)
- 10月1日 (日) 2018年度女性医学研究者支援 公募開始
- 10月7日 (土) 学生サポーター講習会実施(1日目)
- 10月18日 (水) 沖縄ファミリーサポートセンター ファミリーサポート室視察来校
- 10月21日 (土) 学生サポーター講習会実施(2日目)
- 10月23日 (月) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 10月24日 (火) 学生サポーター講習会実施(3日目)
- 10月28日 (土) ファミリーサポート全体交流会
- 11月4日 (土) 学生サポーター講習会(4日目)
- 11月6日 (月) 第15期保育サービス講習会(全7日)
- 12月11日 (月) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 12月11日 (月) 学生サポーター修了証書授与
- 12月19日 (火) 神戸大学医学部附属病院 ファミリーサポート室視察来校

2018

- 1月16日 (火) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 2月13日 (火) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 2月22日 (木) ファミリーサポート後期スキルアップ研修会
- 2月26日 (月) 第23回女性医師・研究者支援部門 運営委員会開催
- 3月13日 (火) ファミリーサポート調整会議開催

女性医師支援シンポジウム2017

(2017年5月27日)

5月27日(土)臨床講堂Ⅰにおいて、女性医師・研究者支援部門主催、総合研究所共催による女性医師支援シンポジウム2017が開催されました。シンポジウムの第1部では、研究支援を受けた女性医師による研究成果発表、医学部4年生による研究プロジェクト報告がありました。本シンポジウムは、平成25年度から医学部4年生の人間関係教育の授業の一環として開催していますが、昨年から学生による研究プロジェクトについての報告を行っています。第2部では、「キャリアパスの多様性」と題し、卒後17年の女性医師と本学卒後27年の卒業生による講演が行われました。シンポジウムには学内外から総勢133名の皆様にご参加をいただき、大変盛況のうちに終了することができました。ご参加いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

第1部



第1部は、はじめに齋藤加代子先生より本学の女性医師の支援についての説明があり、続いて2016年度「女性医学研究者支援事業基金」を受けた国際環境・熱帯医学教室特任助教の吉井亜希子氏(座長:同教室教授・講座主任の杉下智彦氏)が、ご自身の研究報告をされました。パプアニューギニアにおける現地調査の分析結果やこれからの課題などを学生にもわかりやすく説明され、学生に基礎研究の面白さが臨場感を持って伝わりました。続く研究プロジェクトの報告は、7名の学生が発表を希望したため1人あたりの発表時間は短くなりましたが、与えられた研究テーマの目的をよく理解した上で、実験方法、得られた結果、考察をコンパクトにまとめて発表していました。同級生の発表を聞いた他の学生からは、「とても良い刺激になった」、「興味を持って発表を聞くことができた」、「研究内容や発表方法などが参考になった」、「有意義だった」という感想が多数寄せられ、近い将来の基礎研究への意欲につながった手ごたえを感じました。

第2部



第2部の河野恵美子氏による講演「子育て外科医10年の歩み」では、ご自身が女性外科医師として子育てをしながら働く中で経験されたさまざまな障害物を、どのように1つ1つ越えてきたか、その生き様を、笑いや率直な感想をまじえながら、ありのままに学生に伝えてくださいました。また、大淵美帆子氏は、講演「育めばいつか実がなる」の中で、結婚後10年間の非常勤勤務から思い切って常勤に戻り、そこから向かい風の中で力強く1歩1歩進んできたプロセスと考え方を淡々と、しかし学生の心に沁みわたる言葉で語られました。お二人の講演は、人生の先輩として、卒業生として、後輩達の成長を願う素晴らしい講演でした。学生からは、「感銘を受けた」、「目標にしたい」、「女性医師のキャリアの積み方を深く考えた」、「自分の限界を狭めてはいけないと考えられるようになった」、「自分の将来を考えるきっかけになった」などの感想が数多く寄せられ、お二人の話が学生の心に深く響いたことがわかりました。本企画の成功は、研究発表者、講演者、企画運営スタッフを含め参加者全員との協力により成し得たものであり、関係の皆様改めて感謝申し上げます。これからも、女性医師・研究者支援部門では、学生や若手医師を対象とした、医師としての、そして研究者としての芽を育むシンポジウムを企画していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

部門運営委員

論文発表

著者名	タイトル	誌名
Yuichi Takeuchi, Hironobu Osaki, Yuki Yagasaki, Yoko Katayama, *Mariko Miyata	Afferent fiber remodeling in the somatosensory thalamus of mice as a neural basis of somatotopic reorganization in the brain and ectopic mechanical hypersensitivity after peripheral sensory nerve injury.	eNeuro 4(2) 0346-16, 2017

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
野原理子, 荒木葉子	フォーラム	口演	第90回日本産業衛生学会	女性労働者の研究確保支援のためのガイドライン	東京	2017.5.11
野原理子, 森智恵子	シンポジウム	座長	第90回日本産業衛生学会	働く女性の健康~予防医学を展望する~	東京	2017.5.12
岡田みどり, 林和彦, 佐藤梓, 齋藤加代子	一般講演	ポスター	第49回日本医学教育学会大会	中高生の理系進路選択支援プログラムにおける出張講義の効果	札幌	2017.8.19
岡田みどり, 中村裕子, 佐藤梓, 齋藤加代子	一般講演	ポスター	日本薬学会第138年会	女子中高生の医療に関わる理系進路選択を支援する取り組みの総括女子中高生の理系進路、医療系職業選択に与える影響	金沢	2018.3.28

支援を受けた女性医師・研究者

論文発表

著者名	タイトル	誌名
Sugawara H, Murata Y, Ikegame T, Sawamura R, Shimanaga S, Takeoka Y, Saito T, Ikeda M, Yoshikawa A, Nishimura F, Kawamura Y, Kakiuchi C, Sasaki T, Iwata N, Hashimoto M, Kasai K, Kato T, Bundo M, Iwamoto K.	DNA methylation analyses of the candidate genes identified by a methylome-wide association study revealed common epigenetic alterations in schizophrenia and bipolar disorder.	Psychiatry Clin Neurosci. 2018 Feb 11. doi: 10.1111/pcn.12645. [Epub ahead of print]
Matsushita N, Hassanein M, Martinez-Clemente M, Lazaro R, French SW, Xie W, Lai K, Karin M, Tsukamoto H.	Gender difference in NASH susceptibility: Roles of hepatocyte Ikkβ and Sult1e1	PLoS One. 2017 Aug 10;12(8)
Yuichi Takeuchi, Hironobu Osaki, Yuki Yagasaki, Yoko Katayama, *Mariko Miyata	Afferent fiber remodeling in the somatosensory thalamus of mice as a neural basis of somatotopic reorganization in the brain and ectopic mechanical hypersensitivity after peripheral sensory nerve injury.	eNeuro 4(2) 0346-16, 2017
Seki A, Ishikawa T, Daumy X, Mishima H, Barc J, Sasaki R, Nishii K, Saito K, Urano M, Ohno S, Otsuki S, Kimoto H, Baruteau A-E, Thollet A, Fouchard S, Bonnaud S, Parent P, Shibata Y, Perrin J-P, Le Marec H, Hagiwara N, Mercier S, Horie M, Probst V, Yoshiura K-I, Redon R, Schott J-J, Makita N.	Progressive Atrial Conduction Defects Associated With Bone Malformation Caused by a Connexin-45 Mutation.	



2017年度の支援者は1名。

研究者でありながら、母となったことをきっかけに
仕事と子育ての両立を前向きに捉え、支援を受けながら
研究者としてのキャリアを継続することを選択されました。
木内先生のさまざまなチャレンジが多くの方々の心に響き、
励ましとなることを期待しています。

生理学(第一)講座

木内 有希

研究内容

私は生理学(第一)講座に所属しておりますが、2016年5月に第2子を出産後、約1年半、二期に渡り、女性医師・研究者支援制度を利用させて頂きました。子育ての時間を十分とりながら、研究を続けられたことを感謝しています。現在は神経回路の改編・維持機構の分子基盤の解明を目指し、様々な因子に着目して研究を行っています。その因子の一つであるMeCP2は乳児後期に特徴的な退行現象を示す進行性の発達障害である、レット症候群の原因遺伝子として知られています。私は支援を利用して、マウスの感覚系視床である、外側漆状体(dLGN)の発達期におけるMeCP2タンパク質の発現変化を検討しました。そして、dLGNでは主に神経細胞にMeCP2が発現すること、MeCP2のタンパク質発現の上昇時期はニューロンの種類により異なることを明らかにしました。さらに、dLGNのグルタミン酸作動性ニューロンは神経回路維持期に正常な視覚経験を得ることで、MeCP2の発現上昇がもたらされることを示しました。この結果は、グルタミン酸作動性ニューロンにおけるMeCP2タンパク質発現が神経回路の形成維持に重要な役割を担っている可能性を示しています。この成果は現在、国際誌に投稿中です。基礎研究は結果がすぐに治療の役に立つようになることは稀ですが、私の研究成果が、疾患の病態解明の手がかりとなることを期待し、今後も研究を続けていきたいと思っております。

profile



学歴

- 2001年 3月 東邦大学 理学部 生物分子科学科 卒業
- 2001年 4月 埼玉大学 理工学研究科 分子生物学専攻 博士前期課程 入学
- 2003年 3月 埼玉大学 理工学研究科 分子生物学専攻 博士前期課程 修了
- 2013年 8月 東京女子医科大学 医学博士(乙)取得

職歴

- 2003年 4月 ~ 2006年 3月 国立精神・神経センター 神経研究所
(現国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所) 疾病研究第三部 流動研究員
- 2006年 4月 株式会社 キャンパス
- 2006年 9月 東京女子医科大学 医学部 生理学(第一)講座 助手
- 2007年 4月 東京女子医科大学 医学部 生理学(第一)講座 助教
- 2016年11月 ~ 2017年 3月 東京女子医科大学 女性医師・研究者支援センター 特任助教
(女性医師研究者支援事業基金による女性医学研究者支援)
- 2017年 4月 ~ 2018年 3月 東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター 女性医師・研究者支援部門 特任助教
(佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による女性医学研究者支援)

メッセージ

支援を頂いたことにより、研究を継続しながら、1歳と7歳の娘と共に、「小一の壁」を乗り越えることが出来ました。寛大な対応や様々なサポートをして下さっている教授ならびにラボメンバーの皆に感謝しています。これから医師・研究者を目指す方々には、様々な支援制度があることを頭の片隅に入れておいて頂きたいです。そして、もし仕事と子育ての両立に悩むときが訪れたら、思い出して、このような制度がないか探して頂けたらと思います。

今後の目標・夢

自閉症などの発達障害では神経回路の正常な成熟・維持機構が破綻していることが予想されています。特定の神経回路を蛍光タンパク質で可視化し、その変化を見るというような基礎研究があるからこそ、その分子基盤の解明を目指すことができると考えています。いつか私の研究成果がこのような疾患の病態解明や治療法の開発へと繋がることを期待して、基礎研究を行っていきたいです。また、家庭では母として、二人の子供の成長を見守っていきたいです。



女子医大・東京医大ファミリーサポート



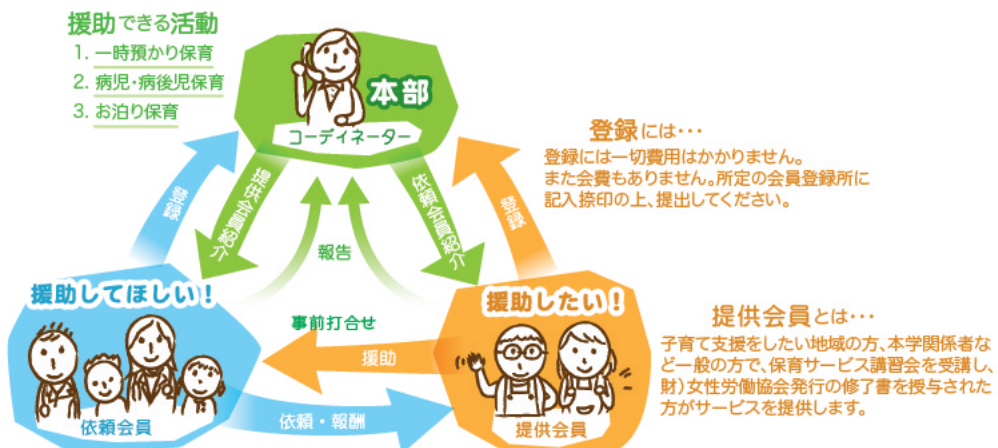
女子医大・東京医大ファミリーサポートは、子育て支援を受けたい人(依頼会員)と子育てを支援したい人(提供会員)が会員登録をして、コーディネーターが調整をする会員制の相互援助活動です。

本学と東京医科大学の在籍者が仕事と子育てを両立するための一環として、地域の人々から子育て支援を受け、また地域に対して医学的な知識・技術の提供を通して、地域全体の保育能力の向上を図り、地域と医療従事者との協力体制を構築することも目的としています。

2011年度より「女子医大ファミリーサポート室」として援助活動を開始し、2014年度からは、東京医科大学の在籍者も依頼会員の登録が可能となり、2016年度から「女子医大・東京医大ファミリーサポート」として事業が継続されています。



依頼会員とは...
東京女子医科大学又は東京医科大学の在籍者で、子育て支援を必要としている方。男性職員でも育児休暇中でも利用できます。



依頼会員 256名 ※2018年3月31日現在
提供会員 185名 学生サポーター 2名
女子医大・東京医大ファミリーサポート



活動実績

保育サービス講習会

提供会員になるための基本講習。全30時間を受講し修了証を受けた者が提供会員となる【6月、11月】

内容

開校式、オリエンテーション、保育の心、子どもの心の発達と保育者のかかわり、子どものあそび、事故と安全、身体の発達と病気、障害のある子の預かりについて、普通救命講習、子どもの暮らしとケア、子どもの栄養と食生活、小児看護の基礎知識、保育サービスを提供するために、院内保育所見学、修了式、修了証授与

スキルアップ研修会

提供会員の継続的なスキルアップを図る【8月、2月】

ヒヤリハット事例の検討、ワークショップ安心・安全なファミリーサポートのために

全体交流会

提供会員と依頼会員および登録希望者の交流を図るイベント【10月】

女子医大祭のイベントのひとつとして開催(ポスター展示、手作りスライム、カラフルこま、折り紙など)

その他

・ファミサポ通信19、20号発行【5月、10月】

・自治体、大学、大学病院、メディアからの取材、シンポジウム、講演会等での発表

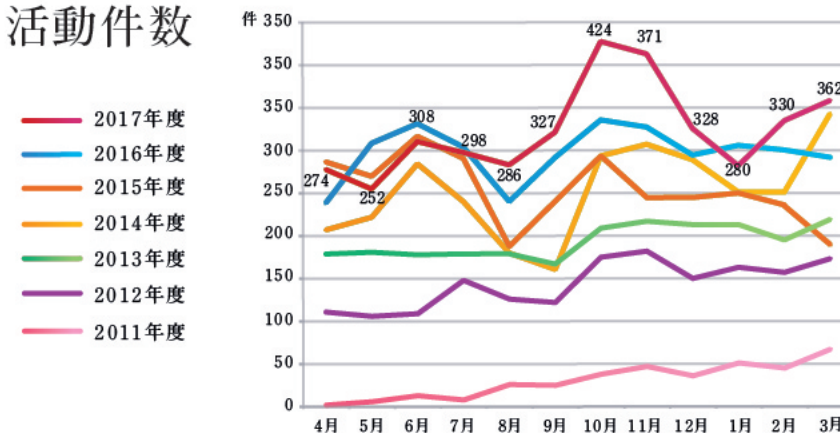
・新宿区ファミリーサポートセンターとのネットワーク会議

・「全国アドバイザー講習会、交流会」に参加

・訪問型子育て支援についての研修会参加

・学生サポーター講習会の協力(全3日)

活動件数



活動内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育園・幼稚園の登園前の預かりと送り	35	40	34	29	23	23	39	35	32	31	32	31	384
保育園・幼稚園の送り	27	30	28	29	29	24	38	24	17	12	11	15	284
保育園・幼稚園の迎え	27	22	24	20	20	23	38	28	23	25	41	44	335
保育園・幼稚園の迎えと帰宅後の預かり	70	55	96	86	85	106	112	97	95	67	66	83	1018
保育園等の入所前の預かり	19	19	29	27	13	28	57	72	37	41	49	49	440
登校前の預かりと送り									1	1			6
学校の迎え	17	2	9	5	2	9	9	7	6	5	8	6	85
下校後の預かり	3	4	2	4		2	6	5	3	7	15	12	63
学校から学童保育への送り													0
学童保育の迎え													0
保育園・幼稚園・学校等のお休みの預かり	14	8	9	25	29	6	16	13	19	7	9	28	183
子どもの習い事・塾等の送り	50	64	56	41	42	56	64	61	59	53	67	66	679
保護者の臨時的就労の場合の預かり	3						2	1	3	9	10	7	35
保護者の学会・研修会参加時の預かり			1	1			2		2	4	1		11
保護者の外出時(冠婚葬祭・リフレッシュ等)の預かり	4	6	10	3	18	21	9	18	3	5	8	1	106
他の子どもの学校行事・通院時の預かり	4	1		17	21	27	31	5	24	12	11	9	162
保護者の病気時の預かり(出産前後等も含む)			1										2
病児・病後児保育			9	11	4	2	1	4	4	2	2	4	43
その他	1	1											2
合計	274	252	308	298	286	327	424	371	328	280	330	362	3840

院内保育所とファミリーサポート室が連携し、充実した保育体制を整備しています。



院内保育所

	昼間保育	延長保育	夜間保育	休日保育	病児保育
対象	2ヶ月～就学前の待機児				原則、3ヶ月～就学前
時間	7:30-18:30	18:30-20:00	20:00-7:30	7:30-18:30	8:00-18:00
料金 (1時間)	200円 2年目以降300円	300円 2年目以降350円	400円	300円 2年目以降350円	500円

年間行事+製作

- 4月 誕生日会、避難訓練 **鯉のぼり**
- 5月 誕生日会、避難訓練 **母の日**
- 6月 誕生日会、避難訓練 **父の日**
- 7月 誕生日会、避難訓練、たなばた **七夕**
- 8月 誕生日会、避難訓練、プール遊び **納涼**
- 9月 誕生日会、避難訓練、秋のミニ遠足、バザー **敬老の日**
- 10月 誕生日会、避難訓練、ハロウィン **ハロウィン**
- 11月 誕生日会、避難訓練 **クリスマス**
- 12月 誕生日会、避難訓練、クリスマス会 **お正月**
- 1月 誕生日会、避難訓練 **節分**
- 2月 誕生日会、避難訓練、節分 **ひな祭**
- 3月 誕生日会、避難訓練、ひなまつり、お別れ遠足 **まとめ**

院内勉強会

- 6月 嘔吐時の対応・食中毒について
- 7月 知っておきたい子どものBLS
- 8月 赤ちゃんの心の発達について
7月研修参加者の伝達講習
- 9月 8月研修参加者の伝達講習
- 10月 離乳食について
- 11月 病児受け入れでの感染症の判断について
- 12月 感染症対策、11月研修参加者による伝達講習
- 1月 嘔みつきについて、12月研修参加者による伝達講習

研修

- 7月 第21回医療保育学会(栃木県):参加者3名
第26回病児保育全国大会(大阪):参加者3名
知っておきたい子どものBLS:参加者12名
認可外保育施設職員テーマ別研修会:参加者4名
IVナース資格院内研修:2名
- 8月 認可外保育施設職員テーマ別研修会:参加者2名
- 11月 大学合同防災訓練:参加者0名
認可外保育施設職員テーマ研修会:参加者2名
- 12月 認可外保育施設職員テーマ研修会:参加者2名
知っておきたい子どものBLS:参加者12名



その他

- ・保育所だより発行(毎月)
- ・病児保育全国大会の原著論文掲載
- ・大学ニュース掲載(7月号、11月号、1月号、2月号)
- ・新宿区による出張絵本読み聞かせ(第2・第4木曜)

2017年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼間保育	198	210	233	182	210	201	222	233	235	284	255	301
延長保育	6	21	18	10	10	9	6	8	13	8	9	10
夜間保育	12	10	11	9	10	8	6	4	4	5	9	0
休日保育	5	5	1	5	3	5	4	13	5	2	2	1
病児保育	15	17	27	33	25	28	22	10	19	22	20	13

女性医療人キャリア形成センター基金につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。これからの社会において多くの女性医療人たちが活躍できるよう、深いご理解とご関心をお寄せくださる皆様から賜りましたご芳志に深謝するとともに重ねて心からお礼申し上げます。

ご寄付合計金額 **99,130,000円** (2018年3月末累計)

ご芳名一覧(五十音順) 2017年4月から2018年3月末まで

- 新井 寧子 様 ○荒木 秀子 様 ○ウオームライト株式会社 様 ○山崎 トヨ 様 ○吉永 花子 様
- 匿名2名

募集要項

- 目的・・・女性医療人の勤務継続支援および医療人としてのキャリア形成とリーダーシップ育成を行うための経費
- 目標額・・・3億円
- 対象・・・法人:1口の金額を特に定めておりません
個人:1口2万円(多数のご支援をいただけますと幸いです。)

*申込方法、振込方法、免税措置(企業等法人、個人)など、寄付に関する詳細につきましては、下記までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

TEL:03-3353-8112(内線:41382) FAX:03-3353-6793

E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp http://www.twmu.ac.jp/w-support/

